



食育イベントで活躍!

東城町健康づくり推進員活動・6/16、6/19

No.6

東城町のショッピングセンタートーエイ（16日）、フレスタ（19日）両店舗で、6月の食育月間にあわせて、地元調味料（塩こうじや酢）を使用した減塩簡単レシピの紹介、減塩商品の試食ができるイベントが行われました。

食育の普及啓発に取り組んでいるボランティア団体の東城町健康づくり推進員もイベントに協力し、スタッフと一緒に、来場者に試食をしてもらいながら、減塩や野菜摂取の大切さ、腹八分目を心がけることなど、減塩による生活習慣病予防のポイントについてアドバイスをしました。

来場者は「意外とおいしい」「家で減塩に取り組んでいるから作ってみたい」と話していました。



▲イベントブースの様子

より充実した内容に

配食サービス弁当試食会・6/12

No.8

口和コミュニティセンターで、口和自治振興区配食サービス部主催の配食サービス弁当試食会が行われ、同自治振興区の関係者が参加しました。この配食サービスは、毎月1回、口和地域の70歳以上の高齢者のみの世帯の方などを対象に、栄養バランスを考えこだわりの地元食材で作った弁当を、一食500円で配送するサービスです。

試食会では、サービスの料金や回数、弁当の味付けや量についての利用者アンケートの結果を考慮して作った弁当を試食した後、今後の事業展開などについての意見交換が行われました。

配食サービス部員は「配食サービスをもっと多くの人に利用してもらいたい」と話していました。



▲会場では弁当試食のあと意見交換会が行われた

高野町を花で美しく

花植えボランティア・6/16

No.5

高野中学校3年生11人が、世代間交流を深めるとともに地域への感謝の気持ちを育むため、老人クラブの花植えボランティアに参加しました。

生徒は老人クラブの方に教わりながら町内の花壇で清掃や草取り、畑打ち、球根掘り、サルビアとマリーゴールドの花の苗植えをしました。最初は慣れない手つきで口数が少なかった生徒たちでしたが積極的にやり方を聞きながら作業をこなし、終わるころには花壇に笑い声が響いていました。

参加した3年生味翔太くんは「地域をきれいに保つ大変さがわかった。ポイ捨てなどまちを汚すことは絶対にはいけないと思った」と話していました。



▲苗の植え方を教わる生徒たち

行政相談を身近に

行政相談委員表彰・5/16

No.7

広島行政相談委員全体会議で、行政相談委員の作田ユリコさんが表彰されたとともに西城紫水高等学校が感謝状を贈られました。作田委員は行政相談の普及啓発に取り組み、行政評価局長が県内の行政相談委員の中から3人選出したうちの1人として表彰されました。西城紫水高校は行政相談の活動を知ってもらう出前教室を意欲的に実施し、全国で唯一感謝状が贈られた団体となりました。

木山耕三市長に報告をした西城紫水高校の三谷浩雄校長は「将来困った時にこんな相談窓口があることを生徒に知っておいて欲しい」、作田委員は「地域のためにとって活動してきた。『相談してよかった』と言われるように頑張りたい」と話していました。



▲木山市長に報告した作田委員（中）と三谷校長（右）

園児のために畑をきれいに

比和山老人クラブ奉仕活動・5/19

No.2

比和山老人クラブの会員が比和保育所を訪問し、園内の畑を耕しました。昨年までは地域の方数人で行っていましたが、今年は「少しでも子どもたちのためになるなら」との思いから、比和山老人クラブの会員17人が集まり作業を行いました。

老人クラブの皆さんは慣れた手つきで作業を行い、たくさん草で覆われていた畑も、次々ときれいになっていきました。作業後畑を見た園児たちは大喜びし、お礼に運動会で踊るダンスなどを披露しました。

後日、園児たちはその畑に野菜の苗を植えました。園児たちや老人クラブの皆さんは「収穫までが楽しみだ」と話していました。



▲作業を終えた比和山老人クラブの皆さん

安心・安全を地域住民で

竹森地区防災訓練・5/28

No.4

東城町竹森地区の自主防災組織、竹森自主防災会を中心に、ゲリラ豪雨を想定した避難訓練が行われ、地元住民約90人が参加しました。

当日は、同自主防災会が竹森集会所に本部を立ち上げ、住民告知端末のページング放送を活用し、対象世帯へ自主避難を呼びかけました。放送を聞いた住民は自分たちで作製した防災マップを確認しながら避難所の竹森集会所に避難しました。避難が完了すると、非常食や炊き出しの豚汁を食べながら、訓練の反省や、次回に向けての計画を話し合いました。

同自主防災会の水戸副会長は「今後も訓練を続け、実際の災害で慌てることのないよう、みんなが対応策をイメージできるようにしたい」と話していました。



▲避難時の注意点について話し合った

ダム10周年を地域と共に!

総領町なかつくに公園の水田で田植え・5/19

No.1

本年秋に開催予定の「灰塚ダム10周年記念イベント」を餅まきで祝うため、総領町なかつくに公園の水田（7アール）で、同町の住民有志17人がもち米の苗を植えました。参加者のうち女性4人は、早乙女姿で手植えをしました。田植えに参加した80代の女性は「手植えは久しぶりだったが、昔を思い出し楽しかった」と話していました。

灰塚ダムは、旧建設省が洪水調整・河川環境保全などを目的に建設し、平成19年に完成しました。

市が主催する10周年記念イベントは、田総の里スポーツ公園をメイン会場として行う予定で、現在実行委員会を設立し準備を進めています。



▲4人の女性が早乙女姿で手際よく手植えをした

地域を越えて世代間交流

農業体験学習・5/14

No.3

西城町三坂地区で、八鉾自治振興区主催の交流事業「田植え体験」が行われ、広島経済大学興動館の学生22人が参加しました。

学生たちは地元の方の指導を受けながら田植え機を運転し、広い田んぼに「あきたこまち」の苗を次々と植えていきました。そして、昼食には学生が考案した地場産の野菜を使ったカレーライスが振る舞われ、学生たちは地元の方との交流を深めました。午後には意見交換会が開かれ、学生たちは地元の方に農業に関するいろいろな質問をしていました。

参加者は、「田植え機を操作する機会はほとんどなく、貴重な体験ができた。今後もこのような地域の方とのつながりを増やしていきたい」と話していました。



▲学生たちは田植え機の操作方法を教わり田植え体験をした